



生命尊重推進の会

NPO法人

# 天使のほほえみ

第9号 平成21年2月25日 発行

お友達をお誘い下さい

年会費 個人 一口 千円以上  
法人 一口 五千円以上

郵便振替口座

00100-6-316987

特定非営利活動法人 天使のほほえみ

発行所

NPO 法人  
天使のほほえみ

発行人 鎌田久子

編集人 菊池光男

出生十一番目の超未熟児

「子供は神が育てる」と納得した

富山県 黒田 辰春

『子供が生まれたために要する費用は、親が支払うのでなく、神が支払うのである』(『栄える生活三三五章より』)

私は昭和十五年の五月、記念すべき皇紀二千六百年の輝かしき年に、また日本民族にとつて初めて経験する大東亜戦争突入の一年前に生まれた。

「あなたが生まれた時、一・八kg(五百匁)だったのよ!」

このことを幼い時から、何か悪さをしたときなどの節々に、聞かされてきた。子供時代の痛棒であった。心の奥に響いている、何となく出生に纏わるモヤッとした霞のような劣等感があるようだった。

父親の掌に載せられ、仏壇にロウソクを灯し、鉦をチンチンと鳴らして先祖に「どうぞこの嬰兒の命がありますように」と、両親が必死に神仏に祈ったと聞かされた。

昔は、殆どの出産は自宅で、産婆さんの介助で生んだもので、産婆さんが言うには「こんな小さな赤子は、どう育つのだろうか?」とのこと、誰が観ても生存が危ぶまれた。(今日でいう超未熟児で、その当時は今のようには気の効いた保育設備はなかったと思う)——両親の唯々神仏に祈る気持ちに、私は涙を流しながら漸く書いていく。

私の母は後添えで、先妻には五人の子が生まれ、私の母は六人生んだ。従つて私は十一番目の児である。本当に神仏、産土の神や先祖の篤い庇護のお陰とただ感謝の思いで一杯である。

昔は電気釜ならぬ薪釜で炊いた御飯をお櫃おひつに入れ、それを食するのが、田舎の習慣であった。そのお櫃が気温が上がると籠たかが弛むので、水に浸すのである。土地の習いとして、小川の流れの緩い所で、流出しないように小石を中に入れて浸しておくと木が水を含んで膨張して、お櫃がシツカリ絞まるという訳である。

生かされて十一歳の夏に、我が家の「三軒上隣」の家のお櫃が、急増水した上流からの水流に押し流されて行くのを、たまたま遊んで

いた私が目撃し見つけ、小川に飛び込み拾つて隣に届けた。その時、川底のガラスか何か鋭利なもので足の踵を傷つけた。

手当が拙く黴菌が入り四、五日の間に大事に到り、遂に足下二十cmの所から切断しなければならぬところまで追い詰められた。施すすべはただ一つ、最新薬のペニシリンしかないとの医者の判断であった。

何はともあれ、価格がべらぼうに高額で小さな家一軒分だとのこと、障子一枚隣で囁いている両親の心配そうな話を聞いて、私は寝ながら小さな心臓が高鳴るのをどうしようもなかった。その甲斐があつて順調に回復し、翌年の五月二十六日に久方振りで登校した。(尋常小学校三学年を約六ヶ月間休校していた)

その日の午後三時頃、集団でワイワイ賑やかに下校した。その途中の三叉路に差し掛かった時、先方に戸板に乗った(御輿みこし)のように四人で担ぐ)病人らしい一団が見えた。その時なんと一瞬誰かが私を抱きしめた。母であった。母は泣きながら「お父さんが事故に遭つて病院に行くのだよ!家に帰り兄、姉の帰るの

を待つのだよ」と言い残して別れた。私はどんな気持ちで家にたどり着いたか判らない。人生の奇遇といえればよいのか、その様な事件が待ち受けていると判るよしも無く偶然出くわすとは……。三人の兄弟が揃い病院へ駆けつけた。むろん私達はなす術もなく、母親に諭されながら家に泣き泣き帰った。家にたどり着くと間もなく父の急逝の報が届いた。六十八歳の生涯だった。

私の怪我で殆ど財産、生活費の底を尽いたのは言うまでもない。母を中心にした一家の苦闘が始まったのである。(一時期、市の生活保護を受けていた)

(以下第三面へ)

お友達をお誘い下さい

年会費 個人 一口 千円以上  
五千円以上

郵便振替口座

00100-6-316987

特定非営利活動法人 天使のほほえみ

(住所変更の際は是非ご連絡下さい)

(第一面下段より)

私は十五歳で仲間五十人と共にYKK(吉田工業㈱)フアスナ―と建材の大手企業に集団就職した。生活の役に立ちたいと、無我夢中の一心であった。

苦節十年、私にも人生の転機があった。二十歳の時に神からの愛の導きが訪れた。今度は「三軒下隣」からであった。養子に入られた婿さんから「生命の真相」を知らされた。上の家では(一)になり、下の家では(十)となり、人生最大の宝庫を戴いたことになった。

その後良き伴侶に恵まれ、二男三女を天与された。YKKに十六年間奉職して、機運熟して独立の運びとなった。

ともかく、かつて市に一時期お世話になったことに対し、「恩返しをしたい!」との念願から、報恩感謝の心で唯只管事業に打ち込んできた。六十人余の社員と、年商十億に勤しみ、納税をしながら国家に貢献させて戴いている。

父母が神仏に篤い祈りを捧げて下さったお陰が天に通じ、一・八kg(五百匁)で生まれた十一番目の嬰兒が、神の暖かき御籠を受け今日に活かされている。

神様からの授かりも、  
全ての子供達の誕生が祝福される社会に!

神奈川県 後藤 明子

私がまだ二十代で、小学校の教師をしていた頃のこと。二、三才年上の女の先生に赤ちゃんが出来て、その方が育児休暇を取られた。年齢が近く、結婚式にも呼ばれたり親しくしていたので、しばらくあえなくなるのは少し寂しかったが、産休だけでなく、育児もとってゆっくり赤ちゃんを育てられると聞いて、なんだかほっとした。

一年後、そろそろ職場復帰という頃、また次のお子さんが出て来て、引き続き育児をとられる事になった。そんな時、たまたま隣の席だった三十代の男の先生が、考えもなく子供を作って、二年も休むなんて、教師としての自覚が足りないよね」と言った。

その先生は、奥様も教師をされていて、お子さんもあったが、そんなに仕事を休む訳にはいかないからと、子供を産らした事もあるのだという。そして、自分のしたことの方が、責任ある教師として当然のことだ、と思

われている様子の話しぶりに私はモヤモヤしたのを感じながら何も言えなかった。

当時、私はまだ結婚して一年ちよつとの頃だった。結婚を決める時、担任している五年生が卒業するまでは仕事を続け、その後は専業主婦になることにしていたので、子供は仕事をやめるまではお預けということに二人で決めていた。

そして、六年生を送り出すと予定通り仕事をやめた。職場で新卒からの六年間を教師として育てて頂いたのに、ご恩返しもしないでやめてしまう心苦しきもあつたが、未練はなかった。これからは自分の子育てをするんだと思っていた。

しかし、こちらの方は予定通りにはいかなかった。仕事をやめて二年たち、三年たつても思い通りには授からなかった。主人は「子供は沢山いてもいい」と言うくらい子供好きだったし、自分も子供のいない生活などとても考えられなくて、どうしても子供が欲しいと思つた。夫婦のあり方など、いろいろな方からアドバイスもいた

いて、努力もした。

「子供は仕事をやめてから」と、神様の授けて下さる時期に制限を付けたら良かったらどうか、とも思ったりした。病院にも通った。

そうして結婚五年目に、ようやく念願の赤ちゃんを授かり、無事に元気な女の子が生まれました。本当に子供は神様からの授かりものだと思つた。諦めかけていた頃でもあり、主人も大喜びで、両方の親やみんなから祝福されるととても幸せな誕生だった。

いま、子育てを通して親としての幸せをしみじみと感じつつも、世の中には親自身からも誕生を喜んでもらえない子供が沢山いること、また誕生させてももらえないで葬られてしまう子供があるということを思うと悲しくなる。

全ての子供達がその誕生を祝福される世の中になれば、どんなに素晴らしい社会になることだろう。

「フキヲYOKOHAMA」

より抜粋

・あなたは小さいとても小さいでも、とても大きくてあたたかくて なにより強くて  
あなたをぎゅつと抱きしめるたび  
私は抱きしめられている  
あなたは命のかたまり  
(妊娠十一週 足立 清子)

・おなかをぽこぽこつぽこつと突然動いた  
はじめて味わった、なんともいえない瞬間  
小さな小さな命が、  
一生懸命生きているサインを送ってくれる  
パパとママはあなたを待ち遠しく、待っています  
(妊娠二十一週 萩原 かおり)

## 特別寄稿・竹島奪還の使命を受けて

日本の領土を守る活動を強力に推進

県土・竹島を守る会 事務局長  
梶谷萬里子

よもや主婦で還暦を過ぎた私  
が、竹島奪還運動に奔走すると  
は、時折不思議な思いに駆られ  
ます。あの日、あの時、あの雑  
誌(サピオ)を手に取らなけれ  
ば、また、現在の得難い同志と  
の出会いがなければ今日「竹島  
」には関わっていないだろうと。  
自分の意思だけではなく何者か  
によって動かされているのでは  
と思っています。

今回、私に原稿を依頼下さつ  
た菊池様をはじめ「天使のほほ  
えみ」スタッフの皆様とは伊勢  
での「学ぶ会・一泊見学会」で  
出会いました。その後、「学ぶ会  
」の皆様には当会をご支援いた  
だいております。皆様は谷口雅  
春先生に連なる方々で脈々とそ  
の流れを受け継ぎ、先生のご遺  
志を受け、生命尊重という尊い  
使命を果たす運動をなさってお  
られると承知しております。私  
も竹島奪還という国の命の一つ

である領土を守るという使命を  
頂いていると思ひ運動をしてお  
り、文字通り「動く」を実践し  
て今日に至っております。

以前の私は保守論客の方々の  
著書を「読む」、講演を「聴く」、  
また仲間内で「語る」という事  
で満足していたものですが、私  
の中に溜め込まれた国を憂うる  
想いはある日、ある時、予想し  
なかつた機会を得、行動に移す  
ことになったのです。「県土・竹  
島を守る会」は以前から竹島に  
格別に関心を持っていたが故に  
発足したものではありませんで  
した。一冊の雑誌が契機となり、  
拉致問題や天皇、皇后両陛下の  
奉迎に取り組んだ仲間と「竹島  
」をやるうと決断、即、行動に  
移したもので綿密な計画をした  
ものではなく、走りながら考え  
るといふ、今から思うと無謀と  
もいえるものでした。

で県条例「竹島の日」制定の要望  
をしたのです。さらに、この「竹  
島の日」制定のために国会議員で  
構成される「日本の領土を守るた  
めに行動する議員連盟(現会長  
山谷えり子参議院議員)へ働きか  
け、デモ行進から二十日後にはそ  
の議連の事務局長(松原仁衆議院  
議員)に県庁まで会い、澄田前知  
事との面談を実現させました。そ  
の面談に当会と島根県会議員(竹  
島領土権確立議員連盟)が同席し、  
「竹島の日」条例について話し合  
い、知事の前向きな発言と共に県  
議連の迅速な動きにより翌年(平  
成十七年)三月に県条例「竹島の  
日」が制定されました。当会が発  
足してからわずか十ヶ月余りのこ  
とでした。(この他の活動は紙幅の  
関係で割愛します)

となった竹島領土権確立の誓願  
は衆参両院で採択されました。  
今年四月からは県内の小中学校  
で副読本を使い、より踏み込ん  
だ内容の竹島学習が行われます  
。現在、県はホームページでウ  
ェブ竹島問題研究所を開設し、  
広く情報を提供しています。  
このような行政による働きと  
は別に、当会も独自に「日本の  
領土を守るために行動する議員  
連盟」やその他積極的に竹島問  
題に取り組んでいる議員に連絡  
を取り、働きかけを行っていま  
す。その一人が新党大地の鈴木  
宗男衆議院議員です。議員はこ  
れまで政府及び外務省に竹島に  
関わる質問趣意書を八十数本提  
出されています。「不法占拠」文  
言を政府から引き出されたのも  
同議員でした。また、先の「竹  
島問題を理解するための十のポ  
イント」を外務省に作成させる  
ために七、八回にわたって質問  
趣意書を出されたのです。そう  
言う働きかけがあったから外務  
省は冊子を作ったと当会は理解  
しています。当初は三ヶ国語(日・英・韓)であったものが現在、  
仏語・露語など十ヶ国語に  
まで増や

されています。また、外務省の  
ホームページも以前とは格段の  
違いで日本の主張を載せていま  
す。しかしそれでも領土問題は  
遅々として進まず、国の取り組  
むべき重要な問題であるにも関  
わらず北方・竹島・尖閣といず  
れも事なかれ主義で相手国とま  
ともな外交をしないのが現政府  
です。

もはや領土問題だけではなく  
日本の現状は、政治家だけに任  
せておけないと国民が本気で声  
を挙げ、行動しなければならな  
い秋となつております。一千万  
人移民計画、在日外国人参政権  
付与、国籍法改悪など日本解体  
の勢力が日増しに強くなってい  
ます。当会はその勢力に対抗す  
べく日本国を守るといふ水脈でつ  
ながったこれらの阻止運動をし  
ている人達と共闘をしています  
。「天使のほほえみ」の皆様も我  
々と同じ水脈で繋がっており、  
今後共闘をしてみたいと思っ  
ています。

## 原稿募集集中

子育て体験、育児法その他会員  
の声を募集します

流産児供養で家庭が光明化  
 生命の尊さを教えてくれた流産  
 児に心から感謝  
 佐賀県 匿名(四十三歳)

数年前から主人が酒乱になり、長男が中三の夏休みから、シンナー遊び、バイク、暴走等の非行を始め、数え切れない程心配事が重なり、またそれに主人の借金が追い打ちをかけ、当然夫婦の仲は不調和でした。私には流産児が長男の生まれる前に二人、次男が生まれてから一人、合計三人ありました。

長男が中学校に入ってから近所や学校関係、あらゆる所に母親の私が菓子折を持って頭を下げて謝ってまわり、何かと頭を下げる事ばかり頻繁に続き、子供達が大きくなるに連れて金額が上がって行きました。

またこの様な時に主人は酒ばかり飲んで借金を作り、なぜか私一人が苦しむ事ばかり起るのです。次男は中学校で友人を殴り、しかも相手は全身打撲で大変な事になり会社に電話が度々かかり仕事どころではありませんでした。

が、会社に行かなければ生活が出来ず、まさに地獄の生活でした。

長男はシンナーを捨てても捨てても持つて来るし「お母さんが死ねばやめるの？」と聞けば、長男は「お母さん、そんな事で僕を直そうと思うの」と自信たつぷりにせせら笑います。私はその頃は流産児供養が少しも出来ていなくて、もう残っているのはこの事しかないと思えました。そして先祖供養と流産児供養を始めました。

それでも長男は色々な問題を起こし、「流産児の供養もしているのにどうして？」と訳が判りませんでした。それで「流産児よ安らかに」のご本を読ませて戴くと、全て長男に当てはまる事ばかりでした。「供養は形だけでも、回数でもない」とも書かれてありました。よくよく身にしみて分かりました。

それからはこの苦しみは私の苦しみではなく流産児の苦しみだと分かり、こんなに苦しんだのかと思うと可哀そうで申し訳なくつて、

「今迄何一つ悪い事はしていないのにどうしてこの私がこんな目に遭わなければいけないのか」と思っていたのですが、気が付いてみれば「自分は随胎という大変な事をしてしまったのだ」と思いました。

この事が解つてからは『甘露の法雨』を真心で誦げる様になりました。それ以降は嘘のように家庭の中は落ち着き始めました。

会員による 「和歌」 の紹介

※田母神空幕長を讀える※

- ・田母神空幕長を 貶める者 中きかす この暗き状を 射照らし給え
  - ・天晴れな 防人の魂 生かしめよ 天地に響け 我等の祈り
  - ・わが体 翼となりて 日本国土 抱きしめて目覚める 秋未明
  - ・君は民を 民は君を 捧むなり 君民一体 日の本の道
  - ・実りあり 行ありわれに 歌ありて 天皇国日本 ありがたきかな
  - ・罪あらば われをとがめよ 天津神 明治大帝 民をかばひて
- (香川県・森 靖子)
- (静岡県・赤倉 寛)
- ・御即位二十年 ことほぎ奉る 式典に こぞりてたたふ その御聖徳
- ・悠久の 国の歴史を 思いつつ 賀状に皇紀 書いてすがしき
- ・新年の あけゆく光 背にうけて あかね色ます 富士に真向ふ
- (東京都・岩田幸枝)

主人は酒も少量になり、まるで仏様の様です。長男は高一を二回やりましたが素晴らしい職につく事が出来ました。次男は問題が全くなくなり、「勉強したい」と言いだし、信じられないのですが勉強を自分からやり始めました。家庭の中が落ち着き、ふと我にかえってみますと、世の中はつくづく理屈ではないんだなあと思いました。「宇治に行つて先生方にお会いし、流産児供養をしたい」と思つておりましたら、有難い事にすぐに宇治へ行ける様になりました。

生命の尊さを教えていただいた流産児に心から感謝し、主人や子供達にも心から感謝しております。これからは人の命の尊さを訴え、身近な人からこの様な人がいたら、一所懸命お役にたたせていただきたいと思つております。

宇治が自分の家の様な気持ちです。またこの家に帰つてきたいとおもいます。有難うございました。